



古道を訪ねて ⑭

箕面街道・牧落地区

西小路地区から南に向かい、牧落地区に入ると、進むにつれて、街道沿いに白壁造りの民家や長屋門など、昔の面影を残す建物が増えてきます。天文3（1534）年創建の歴史がある「安養寺」の門前を通り、しばらく行くと左側に「牧落会館」の建物があります。



現在は、消防分団の格納庫などとして使われていますが、シャッターには「牧落郷倉」と書かれています。江戸時代、村で収穫された年貢米や、飢饉に備えて備

蓄していた穀物などを保管するために建てられた、共同の穀物倉が「郷倉」でした。昔の郷倉跡に今の会館が建てられましたが、地域では「郷倉」の名称を残しています。

会館の西側の街道沿いには、三斗・四斗・五斗の文字が刻まれた、丸味を帯びた3つの石が並べられています。これは「力石」です。力石は、江戸時代の中ごろから明治時代にかけて、神社の境内などの人が集まる場所に置かれ、力比べに使われたものです。一斗が約15kgですので、ここに置かれている一番大きな五斗の石は75kgになります。娯楽の少なかった時代の若者たちが力比べをして楽しむとともに、力仕事が多かった時代に体を鍛えるための役目も果たしてきました。「牧落村」の力石は、地域の人々

により、この場所で大事に保存されています。

牧落会館から南に50m進むと、箕面街道は西国街道と交差します。交差点の北東の角にある高札場跡と、2基の江戸時代の道標を見学して、さらに南に進み、国道171号を越えると、登り坂になり、坂の頂上で市境を越えて、豊中市に続いていきます。



※郷倉は「ごうぐら」と発音しますが、地元では「ごぐら」と呼んでいます。

